

2019年3月期 決算説明会 主な質疑応答

- Q: ヘルスケア領域の営業利益が非常に好調だが、利益の成長ドライバーを教えてください。
- A: ヘルスケア領域は、全事業で収益性が向上している。2018年度は、メディカルシステム事業は全ての製品分野で増収増益。CDMO 事業は設備投資の効果により増収増益。再生医療事業は、2018年6月に連結子会社化したIrvine社の培地販売が想定よりも好調に推移している。医薬品についても、メリハリをつけた研究開発費の使用により、利益は大きく改善している。2019年度は、医薬、CDMO、再生医療3事業合計での黒字化を計画しており、ヘルスケア全体で大幅な増益を見込んでいる。
- Q: 2018年度のイメージングソリューションの営業利益が業績予想に対して未達となったが、チェキの販売が振るわなかったのか。
- A: チェキの販売は好調で、2018年度は1,002万台の販売を達成した。研究開発費の投入や、テイラー・スウィフトさんを起用したプロモーションなど、経営判断として先行投資を行った結果、業績予想に対して未達となっているが、ビジネス自体は好調に推移している。
- Q: 2019年度のチェキの販売計画を教えてください。
- A: 販売台数を追うことはしない。2018年度と同等の1,000万台レベルの販売を維持しつつ、フィルムや高付加価値製品の拡販によりインスタントビジネス全体での売上、利益の維持拡大を目指す。
- Q: 2019年度のイメージングソリューションの売上について、中期経営計画「VISION2019」に対して増収となっている背景を教えてください。
- A: チェキの販売が大幅に伸長したこと、「WALL DECOR(ウォールデコ)」等の付加価値プリントの販売が増加したことに加えて、ミラーレスカメラの販売が好調。一眼レフからミラーレスへのシフトが進む中、当社は小型軽量と高画質を両立する「X シリーズ」と、フルサイズの1.7倍の面積を持つ大型センサーを搭載し、圧倒的な高画質を実現する「GFXシリーズ」のラインアップ拡充により他社と差別化し、売上を伸ばしている。2019年度も継続して売上の増加を目指す。
- Q: 2019年度の株主還元について、考え方を教えてください。
- A: 中期経営計画「VISION2019」において、2017年度～2019年度の3年間で自社株買い2,000億円、配当1,000億円、総額3,000億円の株主還元施策をお約束した。自社株買いについては過去2年間で1,500億円の取得を実施済みで、2019年度は500億円の自社株買いを実施予定。配当は95円を予定しており、3年間の配当総額1,000億円以上を見込んでいる。

Q: ゼロックスコーポレーションとの統合計画についてアップデートがあれば教えてほしい。

A: 現時点でお伝えできるアップデートは無い。統合はベターであるがマストではないという当社のスタンスはこれまでと何ら変わっていない。

以 上